

弘前が大好き！夢に向かってチャレンジ！

まんじ がく
ひろさき  学

弘前を感じ、弘前に学ぶ 好きです弘前！



弘前市教育委員会

ひろさき こ 弘前っ子のみなさんへ

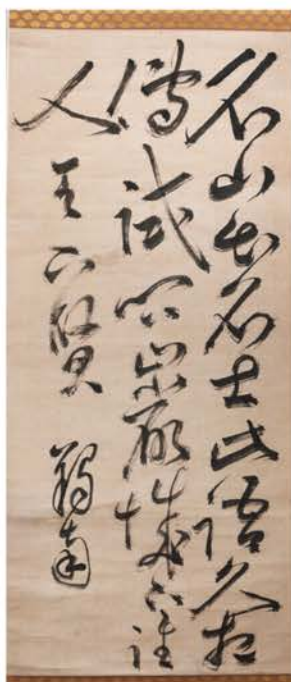
『子どもたちの笑顔あふれるまち 弘前』

これは弘前市がめざす20年後の将来都市像です。弘前市教育委員会では、郷土を大切に、将来の弘前を支え創る人材、国際的に活躍する人材を育てていきたいと考えています。

みなさん一人ひとりの夢が実現できるよう、学校はもちろん家庭、地域そして行政が力を合わせ、市民総ぐるみで小・中学校9年間を支えていきたいと考えております。弘前市は白神山地など豊かな自然に恵まれており、りんごに代表される農業のまちであり、城下町として400年以上の歴史と伝統に培われた文化・観光のまちでもあります。このテキストは、「子どもたちには弘前のこは知ってほしい」、「弘前が大好きで、夢に向かってチャレンジする子に育ててもらいたい」という市民の願いがたくさんつまった内容となりました。

小・中学生のみなさん、ぜひ、このテキストを手がかりにして、弘前市の様々な魅力を感じ、学んで、発信できるよう「ひろさき卍(まんじ)学」に取り組むことを期待しています。みなさんが郷土に誇りと愛着を持ち、高い志をもって「社会を生き抜き、未来をつくる弘前っ子」として成長し、弘前の未来をデザインするクリエイターとして活躍してくれることを願っております。

ひろさき しきょういく いんかい
弘前市教育委員会



名山出名士(めいざんめいし)をい出す
此語久相伝(このごひさしくあいつと)
試問巖城下(このころみにとうがんじょうのもと)
誰人天下賢(だれびとかてんかのけん)

羯南
かっなん

(養生会蔵)

「名山が名士を生むとは昔から言い伝えられているが、それでは問うてみよう。岩木山麓からどんな偉人傑士がでただろう。」



弘前市出身で明治時代を代表するジャーナリスト
陸羯南の漢詩で、「岩木山が生んだ偉人と呼ばれる
人物になってほしい」という思いが込められています。

目次

ひろ さき	弘前のおいたち	2
し しやう し はな し き	市章・市の花・市の木	2
し みん けん しやう	市民憲章	3
だい しやう	第1章 りんご	
	「りんご」があふれているまち 弘前	4
だい しやう	第2章 ねぶた	
み どもえ たたか あお もり けん なつ あつ	三つ巴の戦い!?青森県の夏は熱い!!	6
むかし ちが ねぶたのかたち へん せん	昔は違ったねぶたの形～ねぶたの形の変遷～	10
ひろ さき	コラム1 過激だった弘前ねぶた!?	11
だい しやう	第3章 弘前城とさくら	
ひろ さき み らい ひろ さき こう えん	弘前のシンボル 未来へのレガシー 弘前公園!	12
ひろ さき	コラム3 お城を建てた場所には、わけ(理由)がある!	14
いま むかし せい き だい じ ぎやう いし がきしやう り	コラム4 今も昔も世紀の大事業!石垣修理	15
ひろ さき	コラム5 「りんごとさくら」の生みの親	16
ひろ さき かん り	コラム6 弘前のさくらの管理	16
つ がる たの む す ほり こしじやう	コラム7 津軽為信が住んでいた堀越城	17
かみ やど いわ き さん ちが	コラム8 神が宿る岩木山!みんな違って、みんないい	18
ぞう けい ぎ じゆつ けっしやう いのしがた ど せい ひん	コラム9 造形技術の結晶!猪形土製品	20
じやうもん じん いの ば おお もり かつ やま い せき	コラム10 縄文人の祈りの場!大森勝山遺跡	20
こめ に ほん さい ほく たん ち すな ざわ い せき	コラム11 米づくり日本最北端の地!砂沢遺跡	21
とき こ で あ き せき ど ぐう	コラム12 時を超えて出会った!奇跡の土偶	21
だい しやう	第4章 歴史	
れき し てき けん ぞう ぶつ ひろ さき な た し	歴史的建造物から、弘前のまちの成り立ちを知る!	22
に ほん まえ かわく に お し しやう さく ひん	コラム13 日本にあった!前川國男の師匠 ル・コルビュジエの作品	24
りゅう は おお いし ぶ がくりゅう	コラム14 なぞの流派「大石武学流」とは!?	25
だい しやう	第5章 偉人・文化	
ひろ さき い じん つちが ふん か	弘前とつながる偉人・培われた文化	26
かい がい こう せき のこ じゅうどう か しょくぶつ がく しゃ	コラム15 海外で功績を残した柔道家と植物学者	28
でん どう きん だい ゆう こう	コラム16 伝統と近代の融合	29
だい しやう	第6章 産業	
ひろ さき でん どう さん ぎやう ひろ さき ささ さん ぎやう	弘前の伝統産業!弘前を支えている産業	30
ひろ さき れき し ねん びやう	弘前歴史年表	32
まんじ がく こう いき	ひろさき卍学広域マップ	34
まんじ がく し がい ち	ひろさき卍学市街地マップ	36

弘前のおいたち

「津茹」「東日流」とも記された津軽が、正史に見えるのは、齊明天皇元年(655年)、津茹蝦夷6人に冠位を授けたとあるのが最初です。

鎌倉・室町時代には、安藤氏が津軽を支配し、やがて南部氏が津軽に勢力を伸ばします。そして、その南部氏の臣下だった津軽為信が独立し、津軽地方の領有に成功します。

為信は領内の開発を進め、慶長8年(1603年)に、後に弘前となる高岡の地に、町割りや、新城の建設を計画しました。

その遺志は2代藩主津軽信枚に受け継がれ、慶長16年(1611年)に城が完成し、城下町弘前も誕生しました。以後、津軽地方の政治・経済・文化の中心として繁栄します。

平成18年(2006年)2月27日、弘前市、岩木町、相馬村の3市町村が合併し、新しいまち「弘前」が誕生しました。



市章・市の花・市の木

平成18年(2006年)2月27日の市町村合併に伴い、新たに市章、市の花、市の木が平成18年(2006年)11月15日に制定されました。

市章



卍(まんじ)は、藩政時代に津軽家の旗印として用いられた由緒あるものです。功德・円満の意味で、吉祥万徳の相を表すといわれ、明治33年(1900年)6月から旧弘前市の市章として用いられてきました。

市の花「さくら」



さくらは、日本一の弘前さくらまつりを演出し、4月中旬から5月上旬にかけてのまつり期間には、全国から約200万人以上もの観光客が弘前を訪れます。

市の木「りんご」



りんごは、健康と美容にも優れた効果があるといわれます。弘前は全国の約20パーセントのりんごを生産する、日本一の生産地です。

市民憲章

弘前市では、市民にふるさとに対する誇りと愛着心を持ってもらい、より一層の一体感と、まちづくりに対する市民意識の高揚を図ることを目的に、平成24年(2012年)1月1日に弘前市民憲章を制定しました。なお、市民憲章パネルの文字は、弘前市の将来を担う市内の中学生の作品です。



市民憲章とは

市民憲章とは、市の理念やまちづくりの方向を明らかにし、市民一人ひとりがまちづくりに主体的に関わっていくための「行動規範・目標」、「道しるべ」となるもので、世代を越えて、共通の目標となるものです。

「りんご」があふれているまち 弘前



りんごのオブジェ
(えきどてプロムナード)



ポストの上にもりんご!
(JR弘前駅前)



マンホールのふたにもりんごが…!!

弘前のまちには、あちこちにりんごが。他にもないかな?



なぜ、弘前市は、「りんご」があふれるまちづくりをしているのでしょうか。?

① 日本一のりんごの産地

弘前は日本一のりんごの産地だよ。



令和6年産りんご収穫量トップ5



「令和6年産りんごの結果樹面積・収穫量・出荷量」(農林水産省HPより)

青森県といえば「りんご」のイメージ。全国りんご収穫量の6割は青森県産です。そして、青森県産りんごのうち約4割は弘前市で収穫したものです。青森県のりんご生産の中心は弘前市であり、弘前市は日本一のりんごの産地なのです。

② りんごづくりをさかんにした人



きくち たてえ
菊池 楯衛

(1846～1918)

(弘前市立弘前図書館蔵)

菊池楯衛は初めてりんごの苗木を配布して、試験的に植えた人で、「青森りんごの開祖」といわれています。青森県にりんご栽培が適することを確かめ、りんごの栽培技術を広めて、本県がりんご主産地になる基礎を作りました。

りんごづくりをさかんにした人たちには、外崎嘉七や對馬竹五郎など色んな人がいます。彼らは、どんな工夫や努力をしてきたのでしょうか。



③ りんごに関わる仕事

りんごづくりは、年間を通じてほとんどが手作業で、非常に手間ひまがかかります。おいしいりんごを作るために、多くの工夫をしています。

■ 毎月の作業

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
整枝・せん定			肥料施用	中耕除草(草刈り)			薬剤散布		袋はぎ(有袋栽培)		
マメコバチや人手による授粉			摘花・摘果		袋かけ(有袋栽培)		着色手入れ		収穫		

りんごづくりの他に、どのようなりんごに関わる仕事があるのでしょうか。



もっともっと、「りんご」をあふれさせよう。お菓子づくり、オブジェづくり、ロゴマークづくり…他にないか考えてみよう。



メモ

【参考】『わたしたちの弘前』(3・4年社会科副読本)、『新・弘前人物志』

第2章 ^{だい しょう}ねぶた

^{みつ}巴の戦い!?! ^{あお もり けん なつ あつ}青森県の夏は熱い!!



^{ひろさき}弘前ねぶた [8月1日~7日]



^{あおもり}青森ねぶた [8月2日~7日]
(提供:公益社団法人 青森観光コンベンション協会)



^{たちねぶた}立佞武多 [8月4日~8日] (提供:五所川原市)

^{あおもりけん}青森県にはいろいろな
ねぶたがあるけど、
どんなねぶたか
見たことがあるかな?

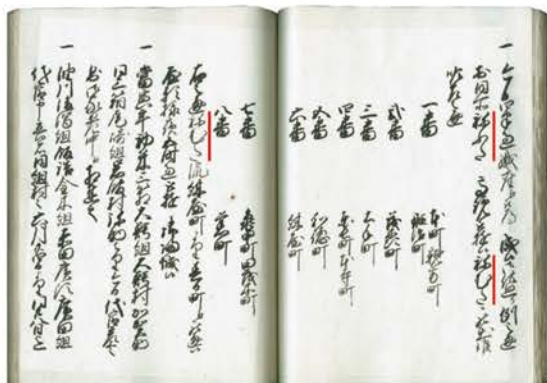


^{ひろさき}弘前ねぶた、^{あおもり}青森ねぶた、^{たちねぶた}立佞武多、^{ちが}どんな違いがあるのでしょうか。 ?

① ^{ゆらい}ねぶたの由来

^{つがる}津軽では他の地域と同様に盆行事の「眠り流し」が行われ、それが「ねぶた流し」と呼ばれるようになり、「ねぶた」になったのではないかとわれています。

ねぶたが最初に記録に登場するのは、享保7年(1722年)の「弘前藩庁日記」で5代藩主津軽信寿が織座(現紺屋町)でねぶたを見た様子がかかれていいます。



^{ひろさきはんちやうにつぎ}弘前藩庁日記 享保7年7月6日条
享保7年(1722年)
(弘前市立弘前図書館蔵)

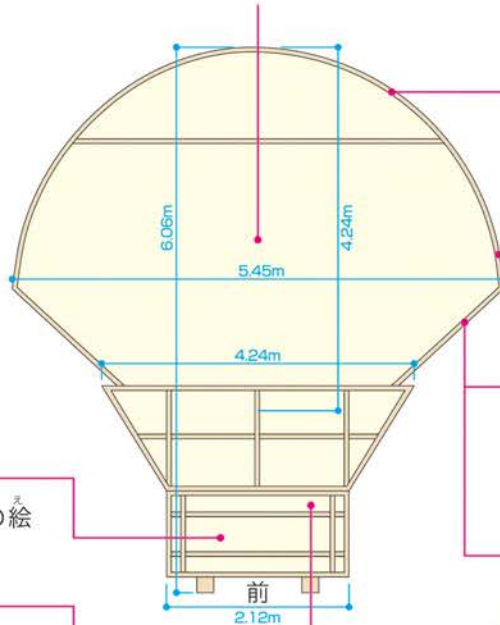
② ねぶたの作り方

● 扇ねぶたの製作と構造

扇ねぶたは、扇形の燈籠で、ねぶた和紙に絵を描いて、骨組みに貼ったものです。「鏡絵」(前)、「見送り絵」(後)、「開き」(中段)、さらに「額」(下段)という部分から成り立っています。



■ 鏡絵 鏡絵には中国の三国志や水滸伝、あるいは日本の武将などの奮戦図が多く用いられている。



■ ため 大型ねぶたになると、この部分を外側に折り返して、信号や標識などの障害物を避けたりする。



■ 額 正面に「雲漢」と書く。両脇の絵は眼が進行方向を見ている。

■ 肩(上) 町名や団体名などを書く。
■ 肩(下) 大きな雲を描く。

■ 袖絵 見送り絵を引き立てるようなものを書く。ねぶた絵は、口ウを使うことによって効果が現れるが、袖絵の部分においては、逆に口ウの線を殺すことによって、落ち着いた感じになることもある。

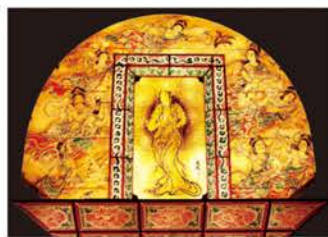
■ 雲 ロウ筆1本、2本あるいは筆の先を割って描く方法があるが、全体のうねりを考えればやく描くのがコツ。



■ 見送り絵 鏡絵の題材にちなんだもの。または袖絵の雰囲気合うものを選ぶ。

■ 蔦 縦、横に蔦がつながった状態をロウ筆で描く。

■ 開き 紙を台座に貼り付けてから描く方法と寸法を取った紙にそのまま描く方法がある。ボタンの花の下絵を1枚描き、紙の下にあてがい、同じ形の花がそろうようにする。



標準的な扇ねぶたの大きさ 扇幅5.45m 高さ6.06m
津軽鏡絵作家協会資料より

● 扇ねぶたができるまで



【参考】『わたしたちの弘前』(3・4年社会科副読本)、『新・弘前人物志』、『弘前の文化財』

③ ねぷたの運行(大型ねぷたの例)

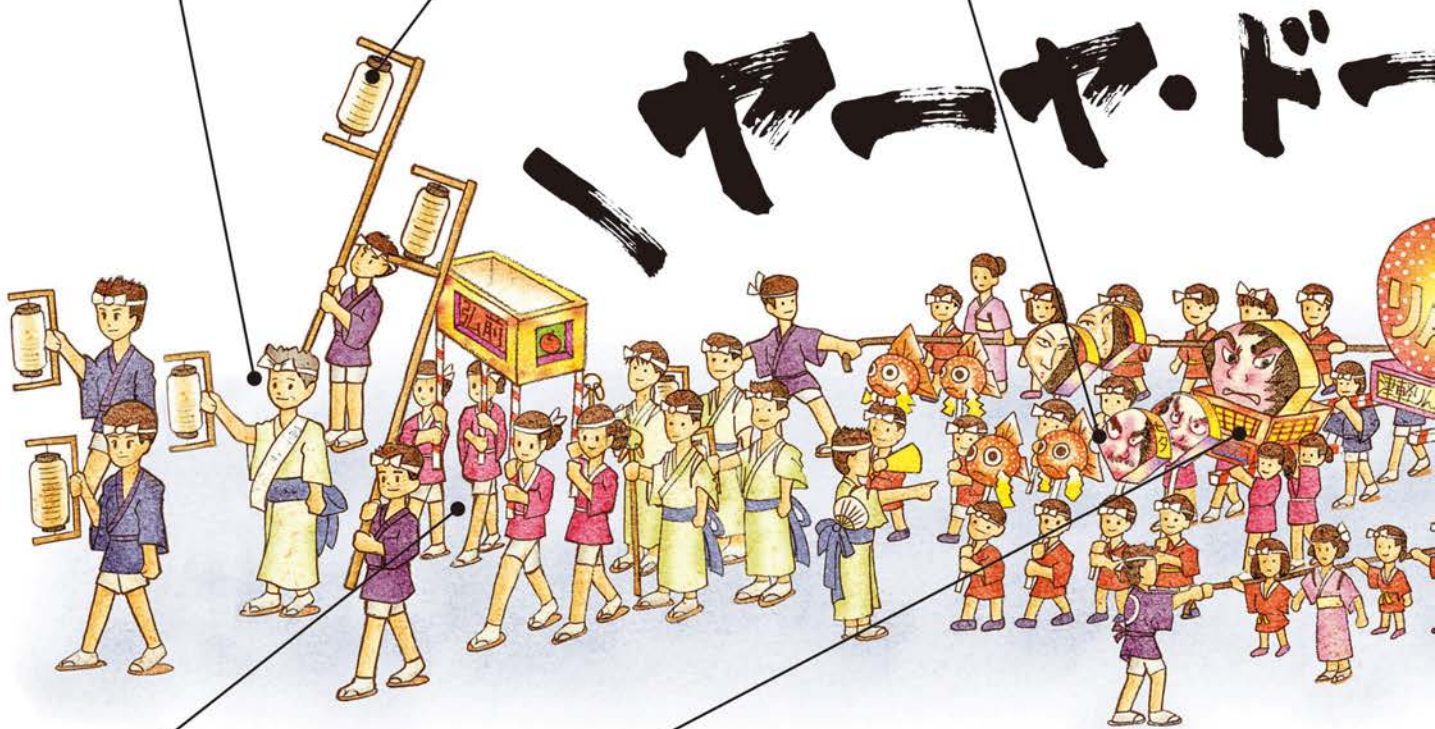
■ 運行責任者

町名や団体名を印した提灯を高々とかがげて先触れをする。

■ 高張提灯

■ 一人持ち燈籠

扇・角燈籠や巾着ねぷた・金魚ねぷたを持つ。



■ 町名・前燈籠

町名や団体名をいれた燈籠が続く。

■ 前ねぷた

昔から「大きいねぷたは後から」というたえがあり、大型ねぷたの前座として、小型ねぷたや角燈籠が続く。最近では趣向を凝らした前ねぷたが登場するようになった。

弘前ねぷたは、昔ながらの隊形に従っているのが一般的です。「ほら貝」や「錫杖持ち」などを配する団体もあり、これらには、魔除けの意味も込められているといわれています。「ほら貝」は昔、戦の出陣の合図に、「錫杖」は藩政時代、錫杖紋として馬印や武具類に用いられていました。仏教では智杖、徳杖ともいわれ、煩惱(※1)を取り除く功德(※2)があるものとされています。

※1 煩惱：仏教のことばで、人間の心やからだをなやますいっさいのまよい。

※2 功德：神や仏のめぐみ。「ごりやく」のこと。



はやし ふえ たい こ
■囃子(笛・太鼓)

あいちょう おお ふえ ね ちからづよ たい こ
 哀調を帯びた笛の音と力強い太鼓のリズ
 ムが印象的なねぶたの囃子には、行進、休
 み、戻りの3種類があり、それぞれの状況で
 つが わ
 使い分ける。

ひ て
■曳き手

ねぶた ほんたい つな ひ
 ねぶた本体につないだ綱を曳
 くことで「ねぶたにさんか
 している」という連帯感れんたいかんが生まれる。

■さしまた

これでんせんで電線もを持
 ち上げて、おおきな
 ねぶたとおを通らせる。

て すりがね
■手摺鉦(じゃがら)

たい こ ふえ はやし いっ そう はな
 太鼓と笛の囃子を一層華
 やかに盛り上げるものでは
 すが、はやしとのバランスがとて
 も重要じゅうよう。

ねぶたまつりで盛り上がる!

ねぶたづくりや囃子演奏、祭りへの参加をとおして、ねぶたの魅力みりょくを
 探さがしてみよう!



コラム ① 昔は違ったねぶたの形 ～ねぶたの形の変遷～

いまは、「弘前ねぶた=扇ねぶた」というイメージが定着していますが、元々、扇の形をしていたわけではありませんでした。

始まりが燈籠流しなどであったことから、初期のねぶたは人形や扇の形ではなく、箱形の燈籠に飾り付けしたものなどでした。

箱形だったねぶたの形が変わり始めたのが江戸時代後期です。ねぶた燈籠の大型化・人形化が行われました。

それから徐々に飾りがつき、時代とともにねぶたは華やかさを増していきます。人形の形である「組ねぶた」が現代の形となります。

明治から大正にかけて「扇ねぶた」が登場します。弘前の藩祖・津軽為信の幼名である「扇」と、ねぶたの台座を応用した新しい作り方で扇型のねぶたが生まれました。

弘前では明治維新(※)で混乱に陥るなか、組ねぶたほど経費も手間もかからない、斬新でユニークな扇ねぶたが主役の座を占めていきました。



はんそためぬぶこう ねんさい
藩祖為信公300年祭
明治39年(1906年)



かみど てまちゆうし くみ
上土手町有志の組ねぶた
大正4年(1915年)

※明治維新：江戸から明治にかけての政治や外国との関係、まちの様子など、社会全体の大きな変化



弘前城天守



満開のさくら



追手門

弘前公園に行ったことある?

弘前公園は、天守やさくらの他にも見どころがたくさんあるよ。



1 弘前城

慶長16年(1611年)5月、2代藩主津軽信枚は堀越城から弘前城へ居城を移します。以後明治に至るまで、弘前城は津軽氏代々の居城となります。

なお、当初建設された5層の天守は、寛永4年(1627年)に落雷により焼失したといわれています。現在の3層の天守は文化7年(1810年)に9代藩主津軽寧親によって再建されたものです。

どうして弘前城天守は曳家(ひきや)によって移動しているのでしょうか?



2 桜の名所として



弘前公園最長寿のソメイヨシノ

正徳5年(1715年)に、桜が植えられた最初の記録として残っています。それから約300年、桜の名所となった弘前公園には52品種約2,600本の桜が咲き誇っています。

でも、最初からたくさんの桜が咲き誇る場所ではありませんでした。たくさんの人々の思いが繋がって、今の桜があるのです。

公園の桜を育て守ってきた人たちの思いやその技術・方法について調べてみよう。



※レガシー:「遺産」

3 ひろ さき こう えん 弘前公園をマップで散策しよう



ひろ さき じょう てん しゅ もん やぐら まわ かこ
弘前城は、天守や5つの門、3つの櫓や周りを囲むほりなど
たくさんあるけど、見たことあるかな？

ひろ さき こう えん
弘前公園マップ

ひがしうちもん
東内門
に まるひがしもん
(二の丸東門)

かめのこうもん
亀甲門
きた くるわきたもん
(北の郭北門)

みなみうちもん
南内門
に まるみなみもん
(二の丸南門)

うし とら やぐら
丑寅櫓

ひがしもん
東門
さん まるひがしもん
(三の丸東門)

ひつじさるやぐら
未申櫓

たつ み やぐら
辰巳櫓

おう てもん
追手門
さん まるおう てもん
(三の丸追手門)

ひろ さき ひろ さき こう えん みらい う つ わたし
弘前のシンボル「弘前公園」。未来に受け継いでいくために、私たちが
ができることはなんだろう。みんなで話し合ってみよう。

さんこう ひろ さき ぶん か ざい
【参考】『弘前の文化財』

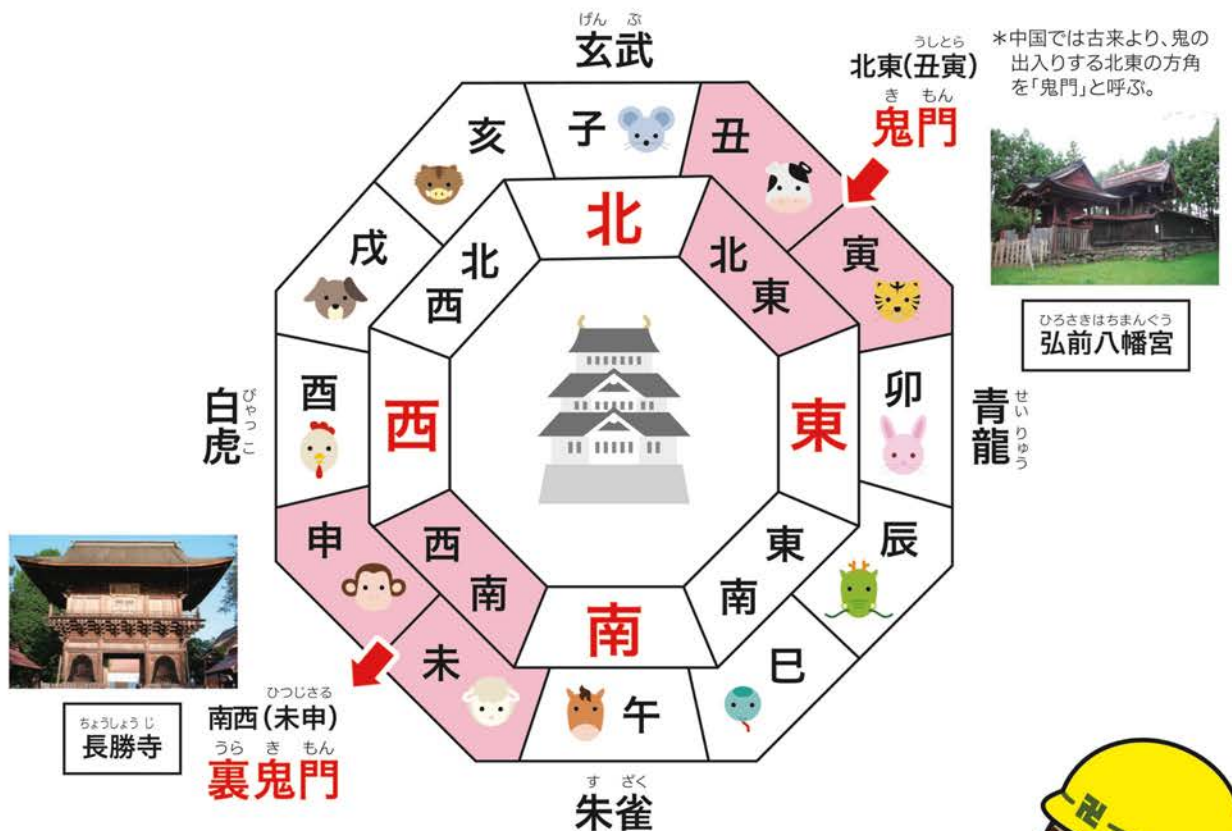


コラム

③ お城を建てた場所には、わけ(理由)がある!

四方を四神が守る「四神相応の勝地」として、築城の場所は「高岡(後の弘前)」に決定しました。四神とは、東の清流“土淵川”を青龍に見立て、南のくぼ地と流水を示す「朱雀」に新しく南溜池を当て、西に江戸に至る道として鱒ヶ沢街道を「白虎」にみなしました。しかし、北には「玄武」に当たる丘陵がないため、当時の正面の門であった亀甲門前の町を玄武(蛇の絡みついた亀)にみなし亀甲町と名づけました。

不吉な方角とされる鬼門(北東)には、八幡村から移した八幡宮と別当寺として最勝院を配置しました。裏鬼門である南西には長勝寺を中心とする33の曹洞宗寺院を連ねました。



*中国では古来より、鬼の出入りする北東の方角を「鬼門」と呼ぶ。



ひろさきはちまんぐう 弘前八幡宮



ちやうしやうじ 長勝寺

現存する3つの隅櫓も「丑寅櫓」「辰巳櫓」「未申櫓」と、十二支方位にちなんで名前がついているんだね。



4 今も昔も世紀の大事業！石垣修理

弘前城本丸東面の石垣には、以前から膨らみが確認されており、崩れ落ちる危険がありました。

市では、平成20年(2008)から弘前城跡本丸石垣修理委員会を組織し、石垣をどのように修理するのか検討してきました。その結果、平成23年(2011)に石垣解体修理することが決定されました。

平成27年(2015)には天守を曳家し、翌年からは石垣の解体工事に着手して、2,185個の石を取り除いたうえで、令和6年(2024)までに石を元の位置に戻すように積み直しました。これにより、江戸時代からの膨らみのない石垣が完成しました。

また、同時に行われた発掘調査では、井戸跡なども発見され、江戸時代のお城の様子を少しずつ明らかにしました。



石垣解体後の本丸 (平成30年)



完成した石垣 (令和6年)

元禄の石垣築造から約200年が経過した明治時代中頃、天守台下石垣の崩落が起こります。そのまま放置すると天守まで崩落する危険性があったため、明治30年(1897年)に弘前市出身の大工棟梁・堀江佐吉が、天守を西側に曳家しています。最終的に石垣を現在の形状に修理し終えたのは、大正4年(1915年)のことでした。



100年前の石垣修理

堀江佐吉は、弘前市内の洋風建築だけでなく、弘前城にも関係していたんだね。





コラム

⑤ 「りんごとさくら」の生みの親

りんごの苗木を配布し、栽培技術・知識の普及に努め、青森県がりんごの産地となる基礎を作った菊池楯衛ですが、彼の好奇心はりんごに留まらず、多くの種類の植物の栽培に没入していきます。

さくらまつりで全国的に有名な弘前公園ですが、その立役者は内山覚弥と菊池楯衛です。江戸時代から明治時代に移り、手入れもされず荒廃していく旧城に私財を投じて桜を植えたのが、旧藩士の二人です。当時は、城内での桜見学に反対した士族の迫害を受け、苗木を折られたり、抜かれたりしました。しかし、市議会議員であった内山が、弘前公園の美化のため、桜の植樹を主張し続け、公園の桜は市民の手により植えられ、守られてきました。

東内門のところにある「弘前公園最長寿のソメイヨシノ」として見事に花を咲かせる樹は、菊池楯衛が植えたものといわれています。



コラム

⑥ 弘前のさくらの管理

病気に弱く短命といわれるソメイヨシノですが、弘前公園では樹齢100年以上の老木も力強く花を咲かせます。

「桜切る馬鹿、梅切らぬ馬鹿」という言葉通り、長い間、桜は切ってはいけないと考えられていました。弘前公園を管理する公園管理事務所も、当初はこの言葉どおり、桜を切ることは御法度でした。ある日、実家がりんご農家を営む作業員が、桜の弱っている状態を見かねて、りんごの木の剪定と同じ感覚で、枯れた桜の枝をバッサリ切り落とし、樹の下に思いきって肥料を入れ、丸太のようにしてしまいました。ところが、翌年、その丸太のようになった桜の切り口から、新しい枝が勢いよく伸び出しました。

当時の公園管理事務所長の工藤長政は、自らりんご農家に通いその管理技術の研究を始め、桜と同じバラ科のりんごの管理技術を取り入れました。

基幹産業であるりんご産業と桜、そして弘前公園が密接につながったエピソードです。弘前市のキャッチフレーズである「お城とさくらとりんごのまち」が誕生した瞬間です。



コラム かみ やど いわ き さん
8 神が宿る岩木山！
ちが
みんな違って、みんないい

あおもりけん いちばんたか やま いわ き さん ひょうこう
青森県で一番高い山、岩木山。標高1,624m (2025年4月国土地理院標高改
ねん がつこくど ち り いんひょうこうかい
正)で「津軽富士」とも呼ばれ、日本百名山に選定されています。

いわ き さん つがる ひと こころ よ どころ やま つがる
岩木山は津軽の人の心の拠り所となる山で、津軽のシンボルとなっています。津軽の
つがる
人は、自分の住んでいる所から眺める岩木山が一番かっこいいと思い暮らしています。





どの^{がっこう}学校^みから見^みえる
 岩^{いわ}木^き山^{さん}の写^{しゃ}真^{しん}かは、
 弘^{ひろ}前^{さき}市^しホー^まムペー^じジ
 を^み見^みてね!



岩^{いわ}木^き山^{さん}参^{さん}詣^ぎ往^わ返^{へん}の図^ず 平^{ひら}尾^お魯^ろ仙^{せん}原^{げん}画
 幕^{まく}末^{まつ}～明^{めい}治^じ期^き (弘^{ひろ}前^{さき}市^し立^{りつ}博^{はく}物^{ぶつ}館^{くわん}蔵^{ざう})

幕^{まく}末^{まつ}から明^{めい}治^じ期^きのお山^{やま}参^{さん}詣^ぎでは、人^{ひと}々^{びと}は様^{さま}々^{ざま}な
 スタイル^{さんか}で参^{さん}加^かして^わいたことが分^わかりま^すす。

岩^{いわ}木^き山^{さん}は古^{ふる}くから津^つ軽^{がる}の
 人^{ひと}々^{びと}の信^{しん}仰^{ごう}の対^{たい}象^{しょう}でした。五^ご
 穀^{こく}豊^{ほう}穰^{じょう}と家^か内^{ない}安^{あん}全^{ぜん}の感^{かん}謝^{しゃ}と祈^き
 願^{がん}をこめて山^{さん}頂^{ちよう}の奥^{おく}宮^{みや}へ集^{しゅう}団^{だん}
 で登^と拜^{はい}する「お山^{やま}参^{さん}詣^ぎ」は津^つ
 軽^{がる}地^ち域^{いき}最^{さい}大^{だい}の秋^{あき}祭^{まつ}りです。

また、「お山^{やま}参^{さん}詣^ぎ」は「岩^{いわ}木^き
 山^{さん}の登^と拜^{はい}行^{ぎょう}事^じ」として国^{くに}指^し定^{てい}
 重^{じゅう}要^{よう}無^む形^{けい}民^{みん}俗^{ぞく}文^{ぶん}化^か財^{ざい}に指^し定^{てい}さ
 れて^いま^すす。

【参^{さん}考^{こう}】市^しホー^まムペー^じ

https://www.city.hirosaki.aomori.jp/kyouiku/gakkou/gakkoukarano_iwakisan.html



コラム 9 造形技術の結晶!猪形土製品

縄文時代は、約15,000年前から2,300年前までの約1万3千年間続いた時代です。十腰内(2)遺跡から出土した、約4,000年前に作られたと考えられる猪形土製品は、イノシシの姿を正確に写しとった、全国的にも貴重なものです。平成23年(2011年)に国の重要文化財に指定され、海外の博物館でも展示されています。



重要文化財 猪形土製品
(弘前市立博物館蔵)
(体長18.0cm 高さ9.7cm)



博物館

マスコットキャラクター
「いのっち」



平成27年(2015年)に開催したデザイン画展で、優秀作品に輝いた弘前市立石川中学校2年(当時)の小田桐朱音さんのデザイン画をもとに作られました。



発掘時の様子(昭和35年)
(弘前市教育委員会)

弘前市立博物館のマスコットキャラクターだよ。



コラム 10 縄文人の祈りの場!大森勝山遺跡

岩木山麓の大森勝山遺跡では、長径48.5m、短径39.1mの楕円形をした約3,000年前の環状列石、ストーンサークルが発見されています。

平成24年(2012年)には国の史跡に指定されており、令和3年(2021年)には、「北海道・北東北の縄文遺跡群」の一つとして世界遺産に登録されました。

なお、ストーンサークルは、神や祖先を祭ったり、人が亡くなったりしたときの葬儀施設として使われていたと考えられています。



かんじょうれっせき
環状列石 (平成19年)
(弘前市教育委員会)



かんじょうれっせき いわき さん のぞ
環状列石と岩木山を望む
(令和2年) (弘前市教育委員会)

コラム 11 米づくり日本最北端の地！砂沢遺跡

弘前市三和地区にある砂沢遺跡では、約2,300年前と推定される水田跡が6枚と水路などが発見されています。弥生時代の水田跡としては日本最北、東日本最古のものとして有名です。

また、平成12年(2000年)には、遺跡から出土した土器や石器などが、国の重要文化財に指定されています。



すいでんあと けんしゅつじょうきょう
水田跡検出状況
(昭和62年)
(弘前市教育委員会)

コラム 12 時を超えて出会った！奇跡の土偶

砂沢遺跡で採集された土偶で、平成12年(2000年)に上半身が、平成21年(2009年)に下半身がそれぞれ拾われたもので、「奇跡の土偶」と呼ばれています。このエピソードが注目されますが、縄文時代と弥生時代の両方の特徴をもった大型の土偶として貴重なものです。二つの時代をつなぐ土偶で、存在感も、まさしく「奇跡」です。



どぐう すなざわ いせきしゅつど
土偶(砂沢遺跡出土)
(弘前市教育委員会)
(高さ20.1cm 幅16.7cm)

歴史的建造物から、弘前のまちの成り立ちを知る!



武家屋敷 (江戸時代～)



洋風建築 (明治時代～)



前川建築 (昭和時代～)

弘前のまち並みには、江戸時代の武家屋敷や明治時代の洋風建築などたくさんあるんだね。

弘前の趣のある建物には、どのような特徴があるのでしょうか?

※趣のある建物について、この二次元コードを読み取って調べてみよう→



1 武家屋敷

津軽為信の意志を受け継いだ2代藩主津軽信枚は、慶長15年(1610年)に築城に着手し翌年に居城を堀越城から移します。寛永5年(1628年)に「高岡」から「弘前」に改称します。城の歴史の始まりは、そのまま弘前というまちの歴史と重なります。

■ 仲町伝統的建造物群保存地区



弘前公園の北側にある門(亀甲門)が、当初の弘前城の正面の門でした。お城の正面を守るために複数の侍町が配置されました。この侍町は「仲町」と呼ばれ、国の重要伝統的建造物群保存地区として選定され、江戸時代の武家屋敷の風景を保存しています。

弘前城の南西にある寺院街は、何と呼ばれているのでしょうか?

2 洋風建築

12代藩主津軽承昭のとき、明治維新が起き、明治4年(1871年)7月、廃藩置県(※)によって「弘前県」となります。9月に弘前県は青森県と改称され、県庁も弘前から青森へと移りました。

明治29年(1896年)に弘前に陸軍第八師団が置かれることとなりました。師団は最大約1万人規模を誇る軍隊であることから、弘前市の人口は飛躍的に増え、弘前は北東北における軍事の中心都市となり、経済的にも発展しました。明治37年(1904年)には、青森県初の銀行として、旧第五十九銀行本店本館が、堀江佐吉により建築されます。大正6年(1917年)には、旧第八師団長官舎が建てられるなど、現存する洋風建築が数多く建てられました。 ※廃藩置県：各地の藩を廃止し、新たに県や府を置いた



きゅうだいごじゅうくぎんこうほんてんほんかん
旧第五十九銀行本店本館



きゅうだいはちしだんちようかんしゃ
旧第八師団長官舎

3 前川建築

モダニズム建築の提唱者であるル・コルビュジェに学び、近代建築の巨匠として知られる建築家、前川國男。日本のモダニズム建築の旗手と呼ばれた前川の昭和初期からの建物が多く弘前に残っています。

撮影者：廣田治雄
提供：前川建築設計事務所



前川國男は、どんな建物を建築したのでしょうか。



他の市町村の歴史的建造物について調べて、弘前と比べてみよう。

【参考】『わたしたちの弘前』(3・4年社会科副読本)、『新・弘前人物志』、『弘前の文化財』



コラム にほん
13 **日本にあった!**

まえかわくに おししょう **前川國男の師匠** さくひろ **ル・コルビュジエの作品**

こくりつせいようびじゆつかんとうきやう
■ 国立西洋美術館 (東京)



へいせいねん 平成28年 (2016年) 7月に東京都内
はつせかいぶんかいさんとうろく で初の世界文化遺産登録された国立西
ようびじゆつかん 洋美術館。

けんちくか フランスの建築家ル・コルビュジエの設計
まえかわくに お で、前川國男ほかコルビュジエの弟子たち
げんばしき が現場を指揮しました。



きむらさんぎやうけんきやうしよ
木村産業研究所
 昭和7年(1932年)建築



ひろさきちやうおうちやうこうどう
弘前中央高校講堂
 昭和29年(1954年)建築



ひろさきしやくしよまえかわほんかん
弘前市役所前川本館
 昭和33年(1958年)建築



ひろさきしみんかいかん
弘前市民会館
 昭和39年(1964年)建築



きやうひろさきしりつびやういん
旧弘前市立病院
 昭和46年(1971年)建築



ひろさきしりつはくぶつかん
弘前市立博物館
 昭和51年(1976年)建築



ひろさきしみどり そうだんじよ
弘前市緑の相談所
 昭和55年(1980年)建築



ひろさきしさいじやう
弘前市斎場
 昭和58年(1983年)建築



左の写真は、平成16年(2004年)4月に、弘前市出身の彫刻家古川武治、武彦親子が制作した銅像です。どこに設置されているのかわかりますか?誰の銅像か知っていますか?



1 弘前の誕生に関わった人物

(1) 津軽為信

弘前藩の初代藩主。天正18年(1590年)に豊臣秀吉から領地を認められ、大名として津軽を領有することになりました。

文禄3年(1594年)に大浦城から堀越城に移り、藩の基礎づくりを行いました。



津軽為信像 (1550~1607) (長勝寺蔵)

(2) 津軽信政

弘前藩4代藩主。新田の開発、岩木川の治水、植林事業のみならず、養蚕、製糸、織物、紙漉など多くの産業振興を行い、「中興の英主」と讃えられました。また、岩木川の流れであった樋ノ口川を埋め立て、二股になって流れていた岩木川の本川化を図った名残が弘前公園の西濠です。



津軽信政像 (1646~1710) (高照神社蔵)

(3) 菊池九郎

初代弘前市長。幕末から大正にかけて、教育・政治・産業など、様々な分野で指導的役割を果たした人物です。明治2年(1869年)、慶應義塾に入学、翌年、鹿児島藩の英学校へ留学。2つの県外留学で出会った福沢諭吉と西郷隆盛から大きな影響を受けて帰郷し、明治5年(1872年)、私立学校の必要性を感じ、26歳の若さで東奥義塾を創設しました。明治22年(1889年)、初代弘前市長として就任しました。東奥日報の創刊に携わり、弘前市長にも再び就任するなど、生涯を通じて、弘前の発展に尽くしました。



菊池九郎 (1847~1926) (弘前市立博物館蔵)

② 教育に貢献した人物

本多庸一

明治3年(1870年)に、横浜へ留学して英学を学びました。次第に宗教に関心を持つようになり、キリスト教に入信しました。明治7年(1874年)には、東奥義塾の塾長に就任しました。教育家、宗教家に留まらない幅広い活動を行いました。



本多庸一
(1848~1912)
(弘前市立博物館蔵)

③ 近代日本を支えた人物

陸羯南

明治22年(1889年)に国民主義の立場から、新聞「日本」を創刊しました。当時の政府を痛烈に批判し、発行停止は実に30回を数えるほどでした。近代ジャーナリズムの先駆けとして、明治言論界をリードしました。また、羯南は、俳句・短歌に革新を進めた正岡子規の支援者としても有名です。



陸羯南
(1857~1907)
(弘前市立郷土文学館蔵)

④ 文化を発展させた人物

(1) 堀江佐吉

堀江家は代々の城大工でした。明治12年(1879年)、北海道開拓使の工事に参加し、函館の洋風建築に驚き、その勉強に努めました。旧弘前市立図書館や旧第五十九銀行本店本館(青森銀行記念館)など、現在も残る優れた洋風建築を数多く手がけました。明治30年(1897年)、石垣の崩壊から守るため、弘前城天守の曳家も指揮しています。



堀江佐吉
(1845~1907)
(提供 株堀江組)

(2) 石坂洋次郎

明治33年(1900年)、弘前市代官町に生まれました。慶應義塾大学文学部を卒業後、教員をしながら執筆を続け、昭和11年(1936年)、「若い人」で作家としての地位を確立しました。14年間の教職の後、本格的な文筆活動に入り、「青い山脈」「陽のあたる坂道」など多くの作品を発表し、そのほとんどが映画化されています。



石坂洋次郎
(1900~1986)
(弘前市立郷土文学館蔵)

自分の住んでいる地域も含めて、弘前の発展・地域の発展に貢献した人物や活躍した人物として、どんな人がいるのか調べてみよう。

【参考】『新・弘前人物志』、『中学生のための弘前人物志』



コラム

15

海外で功績を残した柔道家と植物学者

【前田光世】

ひろさきししゅうしん じゅうどうか まえだみつよ し
弘前市出身の柔道家「前田光世」を知っていますか？

まえだみつよ めいじ ねん ねん ひろさきしふなざわ う ひろさきちゅうがっこう いま
前田光世は、明治11年(1878年)に弘前市船沢に生まれ、弘前中学校(今
ひろさきこうとうがっこう しんがく とちゅう どうきょう わせだちゅうがっこう てんこう じゅうどう
の弘前高等学校)に進学しますが、途中で東京の早稲田中学校に転校し、柔道
であ
に出会います。



めいじ ねん ねん こうどうかん にゅうもん さいのう はつき めいじ ねん ねん
明治30年(1897年)には講道館に入門し、才能を発揮します。明治38年(1905年)にアメリカ
から招かれ柔道を紹介するため渡米します。その後、柔道を世界に広めるため、他流試合をしながら
せいかくち ある まわ ほくしやく いも も よ な おく
世界各地を歩き回ります。スペインでは伯爵の意味を持つ「コンデ」という呼び名を贈られ、「コンデ・コ
マ」と名前をかえました。

せかいじゅう たりゅうじあい まえだ いちど やぶ さいご えいじゅう ち き にほん
世界中で他流試合をした前田は一度も敗れることなく、最後はブラジルを永住の地と決め、日本か
らのブラジル移民の仕事に貢献しました。

へいせい ねん ねん がつ ひろさきししゅうしん ふなきまさかつ せんむはい いみょう も
平成12年(2000年)の5月に、弘前市出身のプロレスラー船木誠勝が、400戦無敗の異名を持
つブラジルのヒクソン・グレイシーと総合格闘技の試合で対戦しました。ヒクソン・グレイシーが扱う「グレ
いしー柔術」のルーツは前田光世の柔道でした。この一戦は、弘前市出身同士の前田光世と船木誠
かつ とき こ であ
勝の時を超えた出会いでした。



【郡場 寛】

ひろさきし ふか しよくぶつがくしゃ こおりば かん し
弘前市にゆかりが深い植物学者「郡場 寛」を知っていますか？

こおりば かん めいじ ねん ねん あおもりし ひろさきはんし かけい う
郡場 寛は、明治15年(1882年)に青森市で弘前藩士の家系に生まれました。
めいじ ねん ねん ねんかん ひろさきし す ちゅうがっこうじだい たいけん で
明治28年(1895年)から5年間、弘前市で過ごした中学校時代の体験や出
あ
会いをきっかけに、植物学の道を歩むこととなりました。

せん じちゅう しゅうわ ねん ねん ねん か にほん どうち しよくぶつえんちゅう つと
戦時中の昭和18年(1943年)、イギリスに代わり日本が統治したシンガポールで植物園長を務
め、植物園の樹木や標本を戦禍から守り抜いたほか、敵国であったイギリスの研究者の支援に力を注
ぎました。

しゅうせん ご しゅうわ ねん ねん ひろさきだいがく だい だいがくちゅう しゅうにん のうがくぶ そうせつ な と
終戦後の昭和29年(1954年)に弘前大学の第2代学長に就任し、農学部の創設を成し遂げた
ほか、現在の5学部体制(人文、教育、医学、理工、農学)の基礎をつくるなど、弘前大学の発展に大
きく貢献しました。

おうようえん ひろさきこうえん かん りしんぎ かい しよだいかいちゅう こうはい ひろさきこうえん ふっこう たざき
このほか、鷹揚園(弘前公園)管理審議会の初代会長となり、荒廃していた弘前公園の復興に携
わったほか、りんご栽培で培った知識や技術を活かした桜の管理方法「弘前方式」の確立にも貢献し
ました。また、弘前市は観光と教育の発展に力を注ぐべき、と提言しました。昭和32年(1957年)、享
ねん ぼつ
年75で没しました。

いこつ ゆいごん はっこうださんちゅう さんこつ
遺骨は遺言により、八甲田山頂に散骨されました。

1 りんご

下の写真は何の写真でしょうか。



りんごがみなさんの家庭に届くまでには、様々な人が関わっています。

① 集荷

農協や出荷組合は、生産者からりんごを集めます。また、移出商は主に産地市場と仲買・仲立人を介してりんごを集めます。

② 選果
荷造り

集められたりんごは、直ちに冷蔵庫に保管され、その後、農協、移出商、出荷組合の選果場で選別、箱詰めされ、各地の卸売市場などへ出荷されます。

③ 輸送

りんごの9割以上はトラックで運ばれます。

④ 上場

卸売市場にりんごが届くと、卸売業者によってせり(※)にかけられます。

※せり: 多くの買い手に競争で値段をつけさせ、一番高い値段をつけた人に販売すること

⑤ 小売

卸売業者から、スーパーマーケット、小売店等を通じて家庭に届きます。

今では、台湾など海外にも輸出しています。

卸売市場を経由しない流通システムもあります。また、りんごを使った様々な商品も開発されています。どのようなものがあるのか話し合ってみよう。

2 伝統工芸品

ひろさき 伝統工芸品
弘前の伝統工芸品はたくさんあります。いくつか言えますか？



5つ以上言えると立派！

(1) 津軽塗



津軽塗の木地には青森県特産のヒバが多く使用され、軽くて強い津軽塗の特長を形成しています。色をつけた漆を、塗っては研ぐことを繰り返し、仕上げまで四十以上の工程を費やして作られています。馬鹿丁寧さのため、「津軽の馬鹿塗り」とも呼ばれています。

「津軽塗」は、平成29年(2017年)10月に国の重要無形文化財の指定を受けています。

「津軽塗」は、平成29年(2017年)10月に国の重要無形文化財の指定を受けています。

(2) こぎん刺し



江戸時代、農家の野良着として使われていた麻の布地を木綿糸で刺して補強した「刺しこ」から発展しています。麻の布地に木綿糸で、刺繍模様を一定の規則に従って幾何学的に造形されたもので、「東こぎん」「西こぎん」「三縞こぎん」の3種類に分けられます。

(3) ブナコ



ブナコは、昭和31年(1956年)に考案されたものです。

ブナコの意味は、県産材の「ブナ」と津軽弁の「〜コ」(名詞の語尾に付ける、親しみを込めた言い方)を合わせた造語です。

ブナコは、薄いテープ状にしたブナの木を巻いていく、独特の製法により立体物を作り上げます。ブナのもつ本来の木質の美しさ、芯の強さを生かした、津軽特有の趣と美しさを兼ね備える風格のある工芸品です。

伝統的な産業や伝統工芸の現状や課題について、お家の人や地域の人にインタビューしてみよう。また、今後どのように発展させていけばよいのか考えてみよう。

【参考】『わたしたちの弘前』(3・4年社会科副読本)、『新・弘前人物志』

弘前歴史年表

年代	主な出来事
15000年前	弘前でナイフ形石器を用いた人の活動がみられる(大森勝山遺跡)
6000~4000年前	円筒土器文化が栄える
3000~4000年前	三内丸山遺跡で大規模集落が営まれる
4000~3000年前	十腰内文化が栄える (十腰内(2)遺跡)
3000~2300年前	亀ヶ岡文化が栄える 大森勝山遺跡で環状列石が造られる
弥生	2300年前 砂沢遺跡で水田稲作農耕が始まる
300~600年頃	前方後円墳造られる
655 (斉明天皇元年)	難波宮にて津軽蝦夷6人に官位が与えられる(『日本書紀』、津軽の初出)
659 (斉明天皇5年)	阿倍比羅夫、蝦夷と戦い、津軽蝦夷らに饗宴を設ける
710 (和銅3年)	都を奈良に移す(平城京)
794 (延暦13年)	都を京都に移す(平安京)
801 (延暦20年)	坂上田村麻呂、蝦夷と戦う
878 (元慶2年)	元慶の乱
1170 (嘉応2年)	藤原秀衡、鎮守府将軍に補任される
1185 (文治元年)	壇ノ浦の戦いで平氏滅びる 源頼朝、守護・地頭を置く
1189 (文治5年)	源頼朝、奥州藤原氏を滅ぼす(奥州合戦) 翌建久元年、大河兼任(泰衡部党)の乱
1200~1400頃	境関館が岩木川舟運の拠点(中継基地)として機能する
1219 (承久元年)	北条義時、曾我広忠を平賀郡岩橋村の地頭代に任命
1274 (文永11年)	文永の役 1281(弘安4年)弘安の役(元寇)
1288 (正応元年)	源光氏ら市内中別所(なかべっしょ)に板碑を建立
1306 (嘉元4年)	北条貞時、藤崎護国寺へ梵鐘(嘉元鐘)を寄進
1322 (元亨2年)	安藤氏の内紛(津軽の大乱 ~28年)が起こる
1333 (元弘3年)	鎌倉幕府滅亡 建武の新政始まる 津軽各地で幕府方、朝廷方が合戦
1336 (建武3年)	足利尊氏、室町幕府を開く 南北朝の争乱津軽地方へ波及
1394~1428 (応永年間)	北畠氏が浪岡城を築く
1432 (享享4年)	安東氏、南部氏に攻められ夷島(えそがしま)に逃走、幕府が調停にあたる
1467 (応仁元年)	応仁の乱(~77年)
1468 (応仁2年)	安藤師季、熊野那智社に旧領津軽・外浜(そとはま)等の回復を祈願する
1491 (延徳3年)	南部(大浦)光信、種里へ移住し、種里城(鯉ヶ沢町)を築く
1502 (文亀2年)	大浦光信、大浦城を築き、子盛信を置く
1567 (永禄10年)	為信、大浦為則の養子となり、大浦城主となる
1571 (元亀2年)	為信、石川城(南部高信)を急襲、高信自害
1578 (天正6年)	為信、浪岡城を攻略し、北畠氏滅亡
1582 (天正10年)	南部信直、弟政信を浪岡城に入部させ津軽郡代とする
1585 (天正13年)	為信、油川城攻略 外浜一帯支配に成功
1589 (天正17年)	為信、豊臣秀吉へ鷹を献上
1590 (天正18年)	秀吉から津軽郡の領有を認められる 前田利家、津軽を檢地し、為信の領知高3万石、秀吉直轄地1万5千石を定める
1591 (天正19年)	為信、津軽氏を称し、九戸の乱へ出陣する
1592 (文禄元年)	為信、肥前名護屋へ出陣(文禄・慶長の役始まる)
1593 (文禄2年)	秀吉、為信ら名護屋参陣の大名に大明国勅使の悪口を禁止
1594 (文禄3年)	為信、大浦城から堀越城へ移り、神社、仏閣などを集め城下町を形成
1596 (慶長元年)	秀吉、為信と出羽国大小名らに伏見作事杉板の回漕を命じる
1600 (慶長5年)	関ヶ原の戦い 為信、徳川方につき大垣城攻略に参加

年代	主な出来事
1603 (慶長8年)	江戸幕府成立 領知高4万7千石(津軽領4万5千石) 高岡に町割りを計画
1607 (慶長12年)	京都山科で為信没し、三男信杖が2代藩主となる
1608 (慶長13年)	為信の長男信建の子津軽大熊、幕府へ信杖の相続不当を訴える(津軽大熊事件)
1611 (慶長16年)	津軽信杖、徳川家康の養女満天姫(まてひめ)を正室に迎える 高岡城(三重濠と五層天守)ほぼ完成、堀越から移る
1612 (慶長17年)	高坂藏人の乱
1613 (慶長18年)	城下の南側に堤防を築き、南溜池を造成し要害とする
1614 (慶長19年)	大坂冬の陣(大坂城攻撃に出陣するも北方の押さえのため帰国)
1615 (元和元年)	城下南方の茂森山を削り長勝寺橋を構築 領内にある寺社の多くが城下へ移転
1619 (元和5年)	越後へ国替えの内命あり、やがて中止
1620 (元和6年)	イエズス会宣教師カルワリユ入領し、弘前近辺の信徒を慰問
1625 (寛永2年)	東廻り海運で江戸へ御膳米の運搬を認可
1627 (寛永4年)	落雷で五層の天守焼失
1628 (寛永5年)	高岡から弘前に改称 東照宮本殿、現笹森町に再建
1636 (寛永13年)	舟橋騒動
1645 (正保2年)	津軽領国絵図・郷帳・城絵図を幕府へ提出
1649 (慶安2年)	寺町大火 寺町(現元寺町)の寺院を新寺町に移す
1656 (明暦2年)	信政が4代藩主となる 叔父信英(のぶふさ)、後見となり黒石に5千石分知(黒石津軽家)
1661 (寛文元年)	御家中諸法度(家訓11カ条)、町人法度頒布 藩庁日記の記録開始
1664 (寛文4年)	4万7千石の朱印状を受ける
1665 (寛文5年)	参勤交代路、大間越街道から碓ヶ関街道に変更 (大手門も現亀甲門から現通手門へ変更)
1667 (寛文7年)	大円寺(現最勝院)五重塔完成
1669 (寛文9年)	寛文蝦夷蜂起、弘前藩幕命により松前へ出兵
1671 (寛文11年)	青森に御飯屋を建設する
1674 (延宝2年)	岩木川掘替え工事
1675 (延宝3年)	尾太(おっつ)銀銅山稼行開始
1681 (天和元年)	農民・町人・寺社法度を定める
1682 (天和2年)	真土村で碓ノ口川を堰止め、岩木川を一筋とし一部は西濠となる 弘前八幡宮祭礼開始
1684 (貞享元年)	貞享領内総検地実施(貞享の御年元帳)
1686 (貞享3年)	紺屋町(こんやまち)に紙漕所を置き紙漕を開始
1687 (貞享4年)	鳥山騒動に連座して処分を受け、翌年江戸屋敷を神田から本所へ移転
1693 (元禄6年)	漆方奉行を創設する 野本道玄(のもとどうげん)を登用し、養蚕・製糸・機械業興る
1695 (元禄8年)	元禄の大凶作 領内餓死者約3万人(元禄大飢饉) 大坂の豪商蒲池家からの借銀開始
1696 (元禄9年)	城内の武家屋敷(弘前城三の丸、四の丸)の郭外移転開始
1701 (元禄14年)	城下の町役(まちやく)、人足役から地子銀納へ 紺屋町に織物会所設置
1710 (宝永7年)	信政、弘前城で没す 遺命により神式で岩木山麓の高岡に埋葬(高照神社) 信寿が5代藩主となる
1712 (正徳2年)	藩士の知行を蔵米制から地方知行制に改める
1716 (享保元年)	享保の改革始まる
1722 (享保7年)	弘前ねぶたの記事が国日記に初めて見える
1731 (享保16年)	「津軽一統志」完成
1753 (宝暦3年)	乳井貞(にゅういみづぎ)を登用し宝暦改革が始まる
1755 (宝暦5年)	宝暦飢饉 弘前藩米切手を大量に発行

年代	主な出来事
1756 (宝暦6年)	標符(ひょうふ)発行、経済大混乱 宇鉄アイヌを和人化
1769 (明和6年)	明和大地震(津軽領最大)
1774 (安永3年)	地方知行を改め蔵米制とする(4割支給)
1783 (天明3年)	天明の大飢饉(餓死者8万人余) 青森で打ちこわし 城下の施行小屋で炊出し
1785 (天明5年)	菅江真澄、津軽領に入る
1787 (天明7年)	寛政の改革始まる
1788 (天明8年)	「東遊雑記」の古川古松軒、弘前に来る
1791 (寛政3年)	赤石行健(あかishiゆきたけ)らが登用され、寛政改革が本格化
1792 (寛政4年)	ロシア使節ラクスマン来航により、宣諭使警衛のため松前へ出兵 藩士の在方令発令
1796 (寛政8年)	藩校「稽古館」(東奥義塾の前身)開校式
1797 (寛政9年)	刑法「寛政律」できる 江戸屋敷に学問所弘道館設置
1798 (寛政10年)	藩士在方廃止 本町金木屋、正札現金売り(木綿・絹布・小間物類)を始める
1799 (寛政11年)	幕府、弘前・盛岡両藩に東蝦夷地警備を命じる
1800 (寛政12年)	伊能忠敬が来藩し、弘前藩領内の測量(～02年)
1803 (享和3年)	鹿田御用掛を任命し、鹿田復興を開始
1805 (文化2年)	7万石に加増(蝦夷地警備の勤功) 択捉島にも派兵 大坂廻米を停止し、江戸の廻米に一本化する
1807 (文化4年)	弘前藩蝦夷地警備の兵士派遣 斎藤勝利、宗谷を経て斜里へ赴き越冬 翌年帰弘
1808 (文化5年)	10万石に加増(蝦夷地警備の勤功)
1809 (文化6年)	黒石津軽家1万石に昇格し、黒石藩誕生
1810 (文化7年)	刑法「文化律」できる 弘前城本丸階櫓(辰巳櫓(たつみやくら))を三層の櫓(現天守)に再建(翌年3月完成)
1813 (文化10年)	民次郎(たみじろう)一揆おこる(領内百姓約2千名亀甲門へ強訴)
1821 (文政4年)	相馬大作事件(旧盛岡藩士による弘前藩主暗殺未遂事件) 弘前・盛岡両藩の蝦夷地警備の任が解かれる
1825 (文政8年)	幕府が異国船打払令を出す
1830 (天保元年)	黒石藩、藩校経学教授所を設置
1832 (天保3年)	天保の大飢饉(～39年)
1833 (天保4年)	財政難をめぐり重臣間の抗争激化し、笠原近江派が実権を握る
1836 (天保7年)	鬼沢(おにざわ)村百姓徒党約200名亀甲門へ強訴 凶作のため酒造厳禁
1837 (天保8年)	大塩平八郎の乱(大坂) 預り手形6種を発行し、領内の米穀を買い占めする
1841 (天保12年)	天保の改革始まる(～43年)
1842 (天保13年)	他領の諸勤進や遊行者(ゆぎょうしゃ)の入領を禁じ、浦々での武器密売禁止
1843 (天保14年)	領内の沿岸警備を強化
1848 (嘉永元年)	平館に砲台建設を命じる
1849 (嘉永2年)	弘前藩医洗江抽斎、將軍御目見医者となる
1852 (嘉永5年)	吉田松陰、津軽に来遊し、弘前の伊東梅軒を訪問
1853 (嘉永6年)	ペリー、浦賀に来航
1854 (安政元年)	日米親善条約を結ぶ 弘前城下で大砲を鑄造し、台場に備えつける
1855 (安政2年)	弘前藩、西蝦夷地の警備を命じられる
1858 (安政5年)	日米修好通商条約を結ぶ 安政の大獄
1859 (安政6年)	稽古館に蘭学堂併設 箱館開港
1861 (文久元年)	藩建造の洋式船青森丸の試運転成功、箱館に安着する
1864 (元治元年)	禁門の変

近
世

年代	主な出来事
1867 (慶応3年)	大政奉還
1868 (慶応4年)	津軽承昭、奥羽越列藩同盟脱退 野辺地にて盛岡・八戸藩と交戦(野辺地戦争)
(明治元年)	戊辰戦争始まる 神仏分離令
1869 (明治2年)	箱館戦争に兵を送る 版籍奉還 承昭、弘前藩知事となる
1870 (明治3年)	余田買上げ告諭(畑田法)
1871 (明治4年)	廃藩置県 近隣5県と合併し弘前県誕生、のち県域を改め青森県と改称
1872 (明治5年)	東奥義塾の設立認可
1875 (明治8年)	内務省より西洋果樹(りんごも含む)苗木配布される
1878 (明治11年)	第五十九銀行(後の青森銀行)弘前に開設
1880 (明治13年)	本多庸一・菊池九郎らの国会開設運動(自由民権運動)
1889 (明治22年)	大日本帝国憲法発布 全国31市の一つとして県内初の市制施行 陸羯南(くがかつなん)新聞「日本」を創刊
1894 (明治27年)	日清戦争(～95年) 日本鉄道の現奥羽線(青森～弘前)開通
1895 (明治28年)	弘前公園開園式
1898 (明治31年)	陸軍第八師団司令部設置
1902 (明治35年)	青森の歩兵第五連隊雪中行軍遭難事件(弘前の第三一連隊参加)
1904 (明治37年)	日露戦争(～05年)
1906 (明治39年)	北の郭子櫓(ねのやくら)と西の郭の櫓焼失 弘前図書館開館 藩祖為信公三百年祭
1914 (大正3年)	第1次世界大戦に参戦 弘前初の活動写真館「慈善館」開館
1918 (大正7年)	第1回観桜会(さくらまつりの前身)開催
1921 (大正10年)	官立弘前高等学校開校式
1929 (昭和4年)	世界大恐慌始まる 官立弘高ストライキ事件
1931 (昭和6年)	満州事変勃発 黒石に青森県苹果(へいご)試験場(現りんご研究所)開設
1937 (昭和12年)	日中戦争勃発 ヘレンケラー来弘講演
1939 (昭和14年)	第2次世界大戦勃発 弘前招魂社(四の丸)を県護国神社に改称
1941 (昭和16年)	太平洋戦争(～45年)
1944 (昭和19年)	金属供出により本丸の為信像徴用される
1949 (昭和24年)	弘前大学発足
1950 (昭和25年)	東北女子短期大学、弘前学院短期大学発足
1955 (昭和30年)	昭和の大合併(中津軽郡11ヶ村との合併)
1961 (昭和36年)	岩木町町制施行
1964 (昭和39年)	東京オリンピック 津軽華子様、正仁親王とご成婚(常陸宮家)
1988 (昭和63年)	青函トンネル開通
1989 (昭和64年) (平成元年)	弘前市制施行百周年
1991 (平成3年)	台風19号襲来、未曾有のリンゴ被害
1995 (平成7年)	弘前公園開園百周年
2004 (平成16年)	藩祖津軽為信公銅像、60年ぶり復元(弘前文化センター前庭)
2006 (平成18年)	中津軽郡岩木町・相馬村と新設合併、新弘前市誕生
2010 (平成22年)	東北新幹線 新青森駅開業
2011 (平成23年)	東日本大震災 弘前城築城四百年祭
2015 (平成27年)	弘前城本丸石垣修理のため天守を曳家(ひきや)
2017 (平成29年)	弘前観桜会百年
2021 (令和3年)	東京オリンピック 北海道・北東北の縄文遺跡群、世界遺産に登録
2022 (令和4年)	弘前ねぶたが文献に初めて登場してから300年の節目を迎える
2025 (令和7年)	青森りんご植栽150周年

近
現代

赤字は全国の主なできごと

参考文献

- 1 津軽こぎん 編著者 横島直道 日本放送出版協会 1974年
- 2 りんごを拓いた人々 著者 斎藤康司 筑波書房 1996年
- 3 ひろさき読解本 津軽ひろさき歴史文化観光検定実行委員会
公益社団法人 弘前観光コンベンション協会 2013年
- 4 陸奥新報「弘前城築城400年新聞」 編集・発行 陸奥新報 2011年
- 5 わたしたちの弘前(3・4年社会科副読本)
編集 小学校社会科副読本編集委員会
発行 弘前市教育委員会 2017年
- 6 弘前市立博物館常設展示図録
監修 長谷川成一 編集・構成・発行 弘前市立博物館 2016年
- 7 新・弘前人物志 編集「新・弘前人物志」編集委員会
発行 弘前市教育委員会 2013年
- 8 弘前の文化財 編集・発行 弘前市教育委員会 2017年

ひろさき卍学 —弘前を感じ、弘前に学ぶ 好きです弘前!—

2018年4月1日 発行

2026年4月1日 改訂

●編集・発行 弘前市教育委員会
〒036-1393 青森県弘前市大字賀田一丁目1番地1
TEL.0172-82-1644 FAX.0172-82-5899

●制作・印刷 凸版メディア株式会社



小学校

中学校